

個人の生活 (その8) < 飯嶋 Tさん >

地域の付き合い

飯島の人たちは、親戚以外の金目、片岡、広川などの人々との付き合いは少なかった。

水争い

金目川の水をめぐる対立や争いがあった。子供たちも、親たちの争いに影響された。

木間さん宅の前で、金目川を挟んで石の投げ合い、父親が金目観音と兼務していたとき弁当を届けに通う片岡の道すがら、ガキ大将の家があり特に怖かった。

金目の桜

花見の季節の桜はきれいで、小学生の頃に見に行った。

桜の木は、南原から小川医院までぐらいに咲いていて、小屋が架けられ芸者の三味線も聞こえた。桜はアーチ状で実にきれいだった。

「たてば」の木間さん

平塚からの荷物を秦野に運搬する荷馬車の車夫などが休憩するところで、お菓子や酒、食堂も兼ねていた。また、宴会もやれる部屋もあった。当時としては、他にはない商いをやっていた。

この店での「焼き鳥」は、主人が捕獲した雀を出していたので、東京から食べに来たお客もいたくらい繁盛していた。ご主人は、屋号の「うなぎや」からの出であった。

近くの神社祭りとしては、真田神社（7月9日）、与一さんの祭り（8月23日）があり、たいそうの賑わいで、見物人は平塚から歩いてきたものだ。神奈中のバスが開通してからは、平塚から臨時便が出た。お化け屋敷やさまざまな店が並び楽しかった。

木間さんの店では、祭りになると金目川に張り出しの店を構え、氷の販売もやっていた。

本郷道（飯島と寺田縄を結ぶ道）

今のようではなく、もっと細く、道いっばいのリヤカーの轍と歩く人の道跡の三本の筋ができていた道だった。

洪水

飯島は名の通り、「島」で洪水被害はなかった。金目川の上流での決壊は、片岡と分ける「控え土手」があり、洪水から守られていた。上流での決壊のときの水の流れは、

「控え土手」の外側を流れ、岡崎境を回り、鈴川の土手に沿って下へと流れた。

今の長瀬地域は、金目川と鈴川の三角地帯であり水のはけ口がなく、汚水が溜まってしまった。昭和 13 年の洪水の時には、池のようになっていたこともある。

大雨が降れば、集落総出で金目川を見に行き、時には、しいの木の枝を切り、「ながし」として土手の削れるのを防ぎ、堤防を守ったりした。

悪いけれども、金目川の上流が切れるときは、下の金田には影響が少なく、助かった。

米 作

金目川の水質は良く、南平橋付近の耕地から収穫される米はこの地域では一番の良質米であった。地下で金目川の石が層となり、その上に土砂という地層が水はけを良くしていたようだ。

惜しいことに、今では川砂利を掘り、売ってしまった為に、土地の多くが畑地となってしまった。

飯島付近での水稻の収量は、反当り 6 俵程度であり、そのうち 3 俵は年貢として支払っていたので、小作人の生活は苦しかった。しかし、地主といえども楽ではなく、年貢だけで暮らしていけた家はなく、あらかたの地主は、自ら農作業に勤しんだ。

関東地震

倒壊しなかった家屋は 2 軒のみで、多くの被害が出た。

農業改革

明珠院としての領地は、2 町 5・6 反であり、暗渠の費用を支払った。農地改革の保証金は 3 万円以下だった。

飯島自慢

飯島には優れものが三つある。そのうち一つが、明珠院の山門、・・・

屋号・通称

木間さん・ドテ、 尾崎昭さん・ドテシタ、 尾崎利男さん・ゲタヤ、
尾崎賢一さん・イシャハン、 尾崎有美子さん・センセイ
諸星忠夫さん・ヒガシ、 尾崎行男さん・モチヤ、 本城義久さん・ウナギヤ、
尾崎光隆さん・シンタク、 諸星孝さん・ウシヤ 尾崎良昭さん・シモ